

長峰公園内の石碑紹介③

今回は、慰霊塔近くにある「矢板武」に関する記念碑二つを紹介しします。

一つは、武の祖母である美譽の功績を称えたもの、そして、もう一つは、武の教育係であった「矢板竹松翁」の碑です。

この二人の存在が、逆境にあった武を郷土の偉人へと育て上げていったのでした。

⑤坂巻美譽刀自壽藏碑 (大正十一年十二月十三日建立)

この碑は高さ二百二十cm、幅九十五cmの大理石でできており、その中央にこの文字が墨痕鮮やかに刻まれています。



四年後に全国漫遊の旅に出てその途中に矢板宿問屋坂巻家に立ち寄りしました。当時の坂巻家では、武兵衛(後

なものでした。三歳の時に祖父(美譽の夫)を八歳の時に母をそして十歳の時に父を亡くして

います。このために、両親に変わって武を養育したのが美譽でした。武は、その恩に報いるためにこの碑を造ることを決意、裏面に刻まれているように、二百数十名の寄付者を得てこの碑が完成しました。

⑥矢板竹松翁碑 (昭和五年三月建立)

矢板竹松は、元々は大村新兵衛という黒田藩士で、天保十一(一八四〇)年に現在の福岡に生まれ

ました。二十七歳の時に京都に上がり、中西耕石の門下生となり南宋画を学びました。



の矢板武)は問屋業の傍ら、名主として対外的にも極めて多忙な毎日を通り、名主として対外的にも極めて多忙な毎日を通り、美譽が家計のやりくりを

していました。この美譽の強い希望で坂巻家に住むことになり、そして、武の教育係を引き受けたのでした。この出会いが武の運命を大きく変えることになるのです。

明治に入ってから、新兵衛は矢板竹松と改姓、後に矢板小学校の初代校長になっていきます。この長男が大安で、泉小学校の校長を経た後に栃木県の学務課長に就任、その後、請われて山形県に出向し、高等学校長や郡長を務めております。さらに、この大安の次男が宮城教育大学の学長の林竹二先生でした。

四年後に全国漫遊の旅に出てその途中に矢板宿問屋坂巻家に立ち寄りしました。当時の坂巻家では、武兵衛(後

記者の矢板おすすめスポット!

リビングセンターたかはしー先代から受け継いだ商いの教えを次世代にもー 人生の節目の贈り物や折々に頂いた祝儀、不祝儀などの返礼品を何にしようか迷ったとき、足を運ぶのが「たかはし」さんです。

まずお店に入るとあいさつと共に「コーヒー飲んでくださいね」。大きな木のテーブルに豆から挽いたコーヒーがすてきな器に入って運ばれて来ます。コーヒーを淹れてくれるのは四代目の由則さん。いつでも柔らかい笑顔を絶やさず、予算や相手の年齢・好み・家族のことなどを聞いて、長年の経験からのアドバイスをしてくれるのは三代目の奥さんの恵美子さん。



シルクロードに思いをはせて 「寺山観音寺」の山門をくぐると、おさむの姿勢が正され、くる。この張り詰めた空気はどこから来るのだろうか。寺伝によると、千二百年の歴史を持つと言われている。創建以来、何千万・何億の人々が手を合わせているわけであるから、この地はそういう人たちの思いが込められた「パワースポット」なのである。

さて、本日は数ある寺宝の中から、観音堂を支えている柱の紹介をしてみよう。ここに三十本の柱は、中心部が膨らんでいる胸張り、いわゆる「エンタシス様式」のもので、あのギリ



(編集後記) 十二支の中で最も身近な「戌年」が巡ってきました。喜怒哀楽を肌で感じ、寄り添ってくれます。私たち編集委員メンバーも市民の皆様と共に一歩、いや百歩でも伝える・つながる情報発信ができたと思います。地元ならではの胸がキュンとなるような出会いを楽しみに、幸せ舞い込むワンダフルな一年にしたいですね。(M・W)